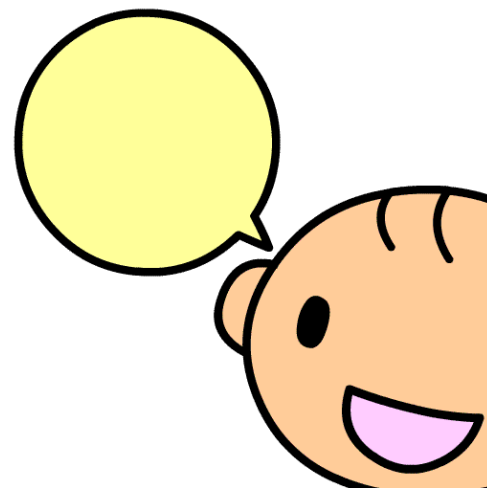


# 事例研究報告

## 特別支援学校小学部児童の 呼びかけに反応し、相手の顔を見る コミュニケーション力の指導



# 児童の実態

- 周りが騒いでいる場面でも平然としている。
- 指さした方を見ていないこともある。
- 指示したことに対して注意が途切れると、すべきことや指示された行動ができないことがある。
- 友だちに関心はあるが、自分から話しかけたり働きかけたりすることはない。  
（日常のコミュニケーションは受動的）
- 発語はあるが言葉が伝わりにくいことがあるため、声をかけるとPECSを活用することができる。
- 周りの人から好意的に接してもらっており、身の回りのことを手伝ってもらうことが多々ある。
- 関わりのある教員に対して、いたずらして楽しんでいることがある。

## 教員の願い

「他者に対し興味や関心をもつことができるようになっしてほしい」

「周りの人に話しかけたり,要求したり,挨拶をしたり,自分から他者とコミュニケーションをとれるようになっほしい」



昨年度に引き続きAI-PACの俯瞰図の中のコミュニケーションをターゲットとして,取り組むこととした。

# AI-PAC 俯瞰図

|           |         |                       |                   |                 |                  |                    |                          |              |                    |             |
|-----------|---------|-----------------------|-------------------|-----------------|------------------|--------------------|--------------------------|--------------|--------------------|-------------|
| 学習基盤      | ☆<br>遊び | 感覚（味わう）<br>①          | 感覚（触る）<br>②       | 感覚（聞く）<br>③     | 感覚（見る）<br>④      | 身体遊び<br>⑤          | 玩具の操作<br>⑥               | タブレット遊び<br>⑦ | 手遊び歌<br>⑧          | ボール転がし<br>⑨ |
| コミュニケーション | 社会性     | 課題実施前の目合わせ<br>13<br>⑩ | 応答型共同注意（指さし）<br>⑪ | 応答型共同注意（首）<br>⑫ | 応答型共同注意（視線）<br>⑬ | 観察反応（声）<br>60<br>⑭ | 観察反応（様々な呼びかけ）<br>51<br>⑮ | 社会的参照<br>⑯   | 始発型共同注意（経験共有）<br>⑰ | 協調的動作<br>⑱  |



AI-PAC参考資料

<https://www.adds.or.jp/development>

## 指導の手続き

### 目標

設定された時間において担任からの「あっ」の声かけに反応し、顔を見ることが出来る。

### 指導期間

令和2年9月17日～

### 指導場面

課題学習,  
生活単元学習の時間

＜課題学習・生活単元学習＞

【指導①】9/17～10/3

課題学習に取り組んでいるとき「あっ」と声をかける。

声かけ後、即座に対象児童の手を担任の頬に当て、担任の顔を見る行動を待つ。

【指導②】10/5～

顔を見ることの意味をもたせるため、担任の顔にシールを貼る。

【指導③】10/15・23～

担任外の教員や友だちの顔にシールを貼ってもらい「あっ」と声をかけてもらう。

## 【指導②】 10/5～

顔を見ることの意味をもたせるため、担任の顔にシールを貼る。

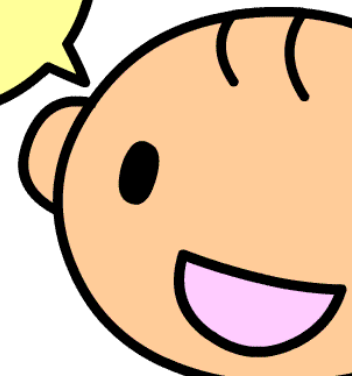
シール  
見つけた  
☆

いたずら好きの〇〇さんだから  
顔にシール貼って見たら、見てくれるかなあ(°°;)



あっ！

これ、  
なに！



先生の声  
「あっ」

先生を見る

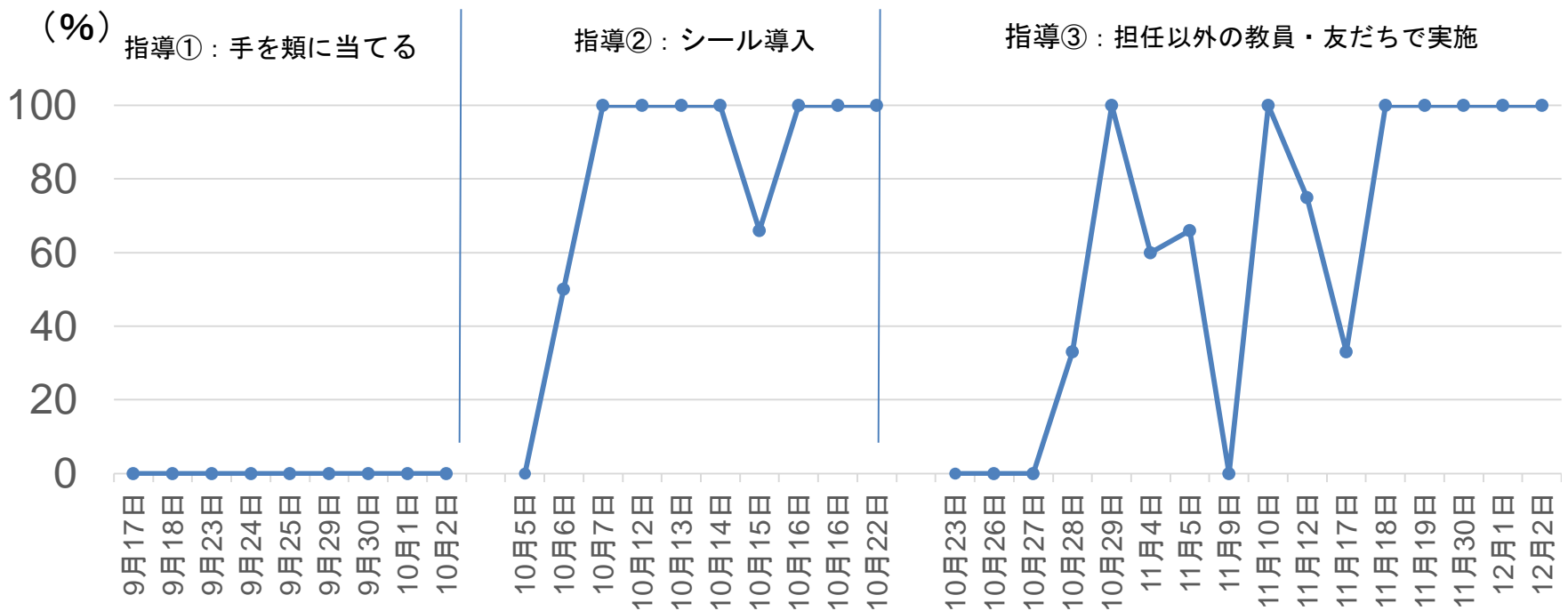
先生の顔にシール  
「おもしろい」☆

# 記録方法

- AI-PACの記録ツールを使用して記録する。
  - + 「顔を見た」
  - P 「支援をうけて見ることができた」
  - 「見なかった」

# 結果①

## 「あっ」で顔を見ることができた割合





# 指導の手続き【般化】

## 般化目標

人を援助するやりとりができるように

友だちの声に反応し、その友だちが落とした物を拾ってあげることができる。

## 指導開始

令和2年11月30日～

## 指導場面

日常のいろいろな場面において行う。

## 【言葉をかえて般化】

例「おお」「うわあ」「えー」

## 【指導④】

①友だちや教員が物を落とした後「おお」「うわあ」「え～」などの声をかける。

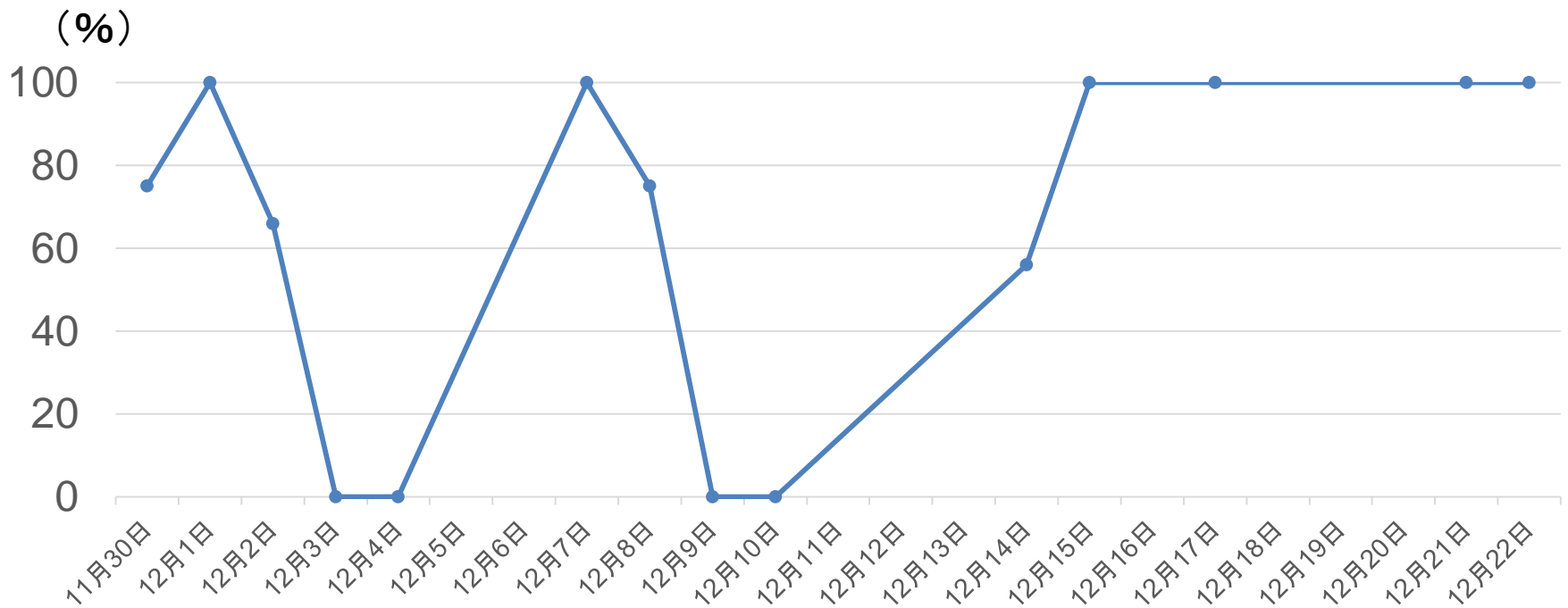
※人をかえて指導していく。

②友だちや教員が落とした物を拾ってあげることができた時は、称賛する。

③友だちや教員が落とした物を拾わなかったり、無反応のときは「○○さんの△△が落ちててるよ」と声かけを行う。

# 結果②

様々な呼びかけに反応して物を捨てることのできた割合



# 指導の成果①

- 教員の「あっ」の声かけへの反応は、指導②でシールを導入したことにより、2日目から教員の方を見るようになり、5日目で達成した。
- 様々な呼びかけへの反応は13日目で達成した。
- 並行して、登下校の挨拶の時に相手の方に身体を向けることができるようになった。
- 教員の問いかけや、説明を聞いて返答ができるようになった。

## 指導の成果②

- コミュニケーションの幅が広がり,他者との簡単な会話を3往復（自分→相手→自分）できるようになってきた。
- 友だちが落とした物を拾ってあげて手渡すときに, その友だちに話かけるきっかけとなった。
- 友だちの言葉をまねる場面がみられるようになった。
- 相手が話しているとき「え～」 「～したな」など言葉で反応するようになった。

# 今後の課題

- 長期休み明けは反応が悪く、「あっ」や声かけにも反応がみられなくなった。

⇒再トレーニングが必要

- 学校が始まって3週間ほどすると反応も良くなった。



- 家庭では、自分から働きかけなくても困らない環境となっているためかもしれない。
- コミュニケーション力を定着させるために、家庭との連携をもちながら「あっ」の指導を継続して行う必要がある。

# 今後の課題

## ～家庭との連携～

- 学校で取り組んだ様子の動画を見てもらう。
- 休日は家庭で同じように取り組んでもらう。

【例】お手伝い

「新聞を取ってきてもらう」など

# ここが成功のポイント

- 目線をあわせるために,どのように注意をひくのか,その方法がなかなか見つからず,取りかかりに時間がかかった。  
シールを顔に貼ることで,遊びとして取り組むことができ自然な形で学習できた。
- 呼ばれて見ると楽しい（シールを見つける）ことがあるようにしたことがよかった。